

NPO 緑の会

特定非営利
活動法人

NPO緑の会

取手市小文間

3838-1

TEL 0297-

72-8791

みんなで咲かせよう「菜の花」

取手市戸頭地区公園に

NPO緑の会で肥料散布と種まき

NPO緑の会会員が戸頭の宮ノ前ふれあい公園に隣接する農地で「菜の花」を咲かせようと活動に参加しました。



こちらは去年の菜の花

この活動は取手市農業委員会が主催しNPO法人バイオライフが共催する遊休農地解消推進事業の一環で遊休農地を解消し、菜の花などの油糧作物を栽培し、植物油を生産することを中心に、その油粕

を肥料・飼料に、花の開花時には養蜂も行おうとするなど、地域における循環型社会構築を目指す活動です。

この活動にNPO緑の会も参加することになり、10月7日生憎の雨の中、与えられたおよそ3反の畑にEM堆肥とEM活性液を撒き、10月12日には耕運機で耕された後、種蒔きを行いました。



雨の中EM堆肥を散布

クレーンで堆肥を下ろす



種蒔き



しばし休憩



8月24日

生ごみは宝だ！ 生ごみリサイクル交流会開催される

NPO堆肥化協会が主催する「第17回生ごみリサイクル交流会」は全国各地から465名が集い、早稲田大学国際会議場で開催されました。NPO緑の会からは恒川理事長以下十数名が生ごみ資源化の最新情報とその取り組みを学ぼうと参加しました。



交流会では全体会で2事例が発表され、分科会では4テーマ(10事例)が設けられ熱心に質問や意見交換が行われました。全体会は高知県椿原町環境推進課長の岩本直也氏より、地球温暖化防止に向けて自然エネルギー活用や森林の保全など環境と共生する里づくりの事例が、また、小田急フードエコロジーセンタ

ーの高橋巧一氏と亀井畜産の亀井隆氏より、食品残渣のリキッドフィードによる養豚の様子や、肉を販売するまでの食品循環サイクルについての事例が発表されました。

分科会では、それぞれ「生ごみは燃やさない！ごみ減量と循環型社会の構築へ」、「臭いを出さない生ごみ堆肥づくり」、「堆肥育ちは美味しい・共同農園でいきいき」、「都会の生ごみ どうする?」のごみまでたどりついたの4テーマで開催され、分科会には我が恒川理事長がアドバイザーを務めました。



特産品の販売

また毎年の交流会で恒例となっている会場出入口近くの特産品販売コーナーでは、NPO緑の会会員が販売を全面的に担当し、参加者に購入を呼び掛けながら売り上げに協力しました。

「善循環の輪の集い」と「花のまちづくりセミナー」
9月19日(土)群馬県伊勢崎市で開催される

「善循環の輪 群馬の集いin伊勢崎」と「花のまちづくりセミナー in伊勢崎」が、9月19日伊勢崎市市民プラザで行われ、NPO緑の会からは恒川理事長夫妻と村上さん、福留が参加し、総勢約400人の参加者でありました。



講演中の比嘉教授

午前中行われた「花のまちづくりセミナー in伊勢崎」では、比嘉教授の講演に続いて、伊勢崎市の粕川ワールドの会高橋美津子代表から全長34kmの粕川の土手に8年前から花を植え続けてきたことで、

ごみの不法投棄がなくなり、次第に仲間が増え、花のまちづくりが進んできたことの発表があり、伊勢崎市の山中ヨカリさんからは、夫婦で「無農薬で環境に負荷をかけない庭づくり」に取り組み今では地域の皆さんに素適な庭を開放し、訪れる市民から喜ばれているとの発表がありました。午後からの「善循環の輪 群馬の集いin伊勢崎」では、比嘉教授講話と医療法人 照聴会「理事長杉本一朗医師による

講演「日本医療の現状と予防医学」があり、事例発表では、葉鹿エコクラブ、EM ネット北関東および伊勢崎有機農業研究会からの発表がありました。

葉鹿エコクラブの児童6人(小学6年生)がその活動内容を交代しながら発表しましたが、活動に裏打ちされた内容を原稿も読まずに堂々と発表する姿に会場の参



体験発表する子供たち

加者は感動すら覚えた様子でした。児童の販売コーナーでは彼らの手作りEM石鹸や活動記録集などが飛ぶように売れていました。



伊勢崎有機農業研究会からは、常時約4千5百頭の豚を飼育している宮田ブリーディングでは、資料と飲料にはEMを添加している。糞はEMで発酵堆肥化し、尿はEMで浄化して河川に流しているが、できる発酵堆肥は希望者が多く予約制で順番待ち、活性化した豚尿はEM豚尿浄化水(環境浄化水)として市内外の農業者に無償提供されているとのこと。

この後、現地視察した養豚場では、豚が気持ちよさそうに水に入ったりしていた。大掛かりな尿のEM浄化装置では、その近くに立っても、ほとんど匂いが気にならないもので

石岡市御前山池で釣大会
大物の鯉もあがる

石岡市御前山地区は池の周りに住宅が並び環境下にあり、各家庭からEM米のとき汁発酵液を流す活動が定着しているとのこと。お陰で池が浄化され、魚が目立って増えてきたとのこと。去る10月4日この池で釣大会が開催され、フナや大物の鯉を釣り上げていました。茨城県議の鈴木せつせつ子さん(石岡緑の会会員)も応援に駆け付け賑やかな大会でありました。



釣り上げたおばあちゃん



表彰式



右は大物を持った鈴木県議(釣ったのはとなりの子供)

また20年ほど経った豚舎のトタン屋根など、金属部分がほとんど錆びていないのは、あらゆる場面でEMを使用している影響ということ、感動モノでした。

編集後記 最近のこと、久しぶりに会った友人と痛飲し、最寄駅から自転車自宅に帰る途中、歩道から車道を横切ろうとして、段差があることに気付かず横転し、顔を大きく擦りむいてしまいました。お酒は飲んでみても飲まれるな、何べん教訓したら・・・。KF